

Qualifying &
Life Member



MDRT®

オフィス **ASADA**

代表 麻田 春江

茨城県取手市井野台 1-7-28 〒302-0015

T E L : 0297-72-2401 FAX : 0297-72-6217

携 帯 : 090-8720-8591

E-mail : officeasada_h@ybb.ne.jp

U R L : http://www.officeasada.com



平成 28 年 6 月 第 59 号

オフィスASADA通信のご案内

4月14日21時26分に九州熊本県と大分県に相次いで発生した地震に多くの方が被害を受けました。その後1400回を超える余震に不安と恐怖の中、避難生活を続けています。一部では仮設住宅への入居も始まり、熊本城内の「加藤神社」の規制も解除され、少しずつ復興に向けた動きが広がってきております。梅雨入りした被災地に土砂災害が起きない事を願わずには居られません。

被害にあわれた皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに犠牲になられた方々にご遺族の皆様に
対し、深くお悔やみを申し上げます。

今月のテーマ

- I 第20回ASADAセミナーの報告！
- II サミットって何！？基礎をQ&Aで！
- III オバマ広島演説「道義的な目覚めの始まり」



G7伊勢志摩サミット
出典：首相官邸ホームページ

I 第20回ASADAセミナーの報告

第20回ASADAセミナーは5月22日に取手福祉会館で行いました！第一部は「**続・相続編**」○×のカードでQ&A形式で行いました。「え～本当？」「そうなんだ～知らなかった」「始めて知った」などと認識も新たにされた方が殆どでした。遠く仙台から赤ちゃん連れの家族も参加されました。

第二部は、「**夫源病**」と「**妻源病**」はどんな病気？から始まって、自分はどうなんだろう？とチェックシートで確認後5～6名のグループになって頂き**フリーディスカッション**をして頂きました。**超！**盛り上がりました。そして8グループのリーダーからの発表です。「この会場で初めて会った人だけだと思っている事を話せて良かった」とか、「他の人の話を聞いて、すごく参考になった」とか、すっかり打ち解けて「また会いたいね」と再会を約束しましたとか**和気あいあいの楽しい時間**を共有できました。この間、公益社団法人日本易学連合会の長谷川先生に13名の方が鑑定をして頂き、鑑定をして頂いた方々にも大好評で大変喜んでいただきました。**笑顔！笑顔！**の一日でした。

II サミットって何！？基礎をQ&Aで！

Q. サミットを他の国際会議と比較した特徴は何ですか？

A. 国際社会が直面する様々な地球規模の課題について、**首脳はひとつのテーブルを囲みながら自由に意見交換をし、物事を決定する。**それは宣言として発表される。首脳のリーダーシップにより国際社会が迅速に解決することが求められている現在、迅速に問題に対応している。

Q. 議長国の任期及びに役割は？

A. サミット**議長国は持ち回り**で行い、開催する国が1月～12月の1年間サミットの議長国となり、サミット開催に向けた事前の準備会合や実際の首脳会談、外相会合、財務相会合等の開催のための諸準備及び議事進行を行う。**伊勢志摩サミットは日本が議長国**だった。

Q. G7とかG8って何？

A. 日・米・英・仏・独・伊・加・露の**8ヶ国の首脳と欧州理事会議長と欧州委員会**も含まれる。**2014年以降はウクライナ情勢から露は参加停止となりG7**となっている。

III オバマ広島演説「道義的な目覚めの始まり」

2016年5月27日、オバマは現職アメリカ大統領として初めて第二次世界大戦末期に原爆が投下された広島を訪問した。これは日本国内だけでなく、世界中に衝撃を与えたのだ。オバマはコロンビア大学在学中だった33年前から「核なき世界」という考えを持っていた。2009年10月9日、オバマは国際協調外交を推進した功績によりノーベル平和賞を受賞した。その直接的きっかけとなったのが2009年4月5日にチェコのプラハで行った「核なき世界」の演説だった。オバマの広島演説も同様に深く重大な事だと私は認識したので、今回のASADA通信に掲載することにしました。

バラク・オバマは、伊勢志摩サミット終了後、現職のアメリカ大統領として初めて広島を訪れた。

平和記念公園の原爆資料館を安倍晋三首相とともに見学し、原爆慰霊碑に献花を行った後、所感を表明したが、それは事前の予想をかなり上回る長さで、強い思いが込められたものだった。

原爆投下の謝罪はなくとも、71年にわたって苦しんできた被爆者に歩み寄って言葉を交わし、その体を抱き寄せるオバマの姿は、演説と相まって感動を呼んだ。

■なぜ私たちは広島を訪れるのか

71年前、雲ひとつない晴れた朝、死が空から降り、世界が変わりました。閃光と炎の壁が街を破壊し、人類が自らを滅ぼす手段を手にしたことを証明したのです。

なぜ私たちはここ、広島を訪れるのでしょうか。私たちは、それほど遠くない過去に解き放たれた恐ろしい力に思いをはせるために訪れるのです。10万人を超す日本の男性、女性、そして子どもたち、何千人もの朝鮮半島出身者、十数人の米国人捕虜を含む死者を追悼するために訪れるのです。彼らの魂が私たちに語りかけます。心の中に目を向け、私たちが何者なのか、これからどのような存在になり得るのかをよく考えるように求めているのです。

■人間は古代から戦争をしてきた

広島を際立たせるのは戦争という事実ではありません。古代の遺物を見れば、暴力的な紛争は人類の歴史が始まった頃からあったことがわかります。火打ち石から刃を、木からやりを作ること学んだ私たちの初期の祖先は、これらの道具を狩猟だけでなく、同じ人類に対しても使ったのです。そして、それぞれの節目で、罪なき人々が苦しみました。

■先の世界大戦は豊かな国々が引き起こした

広島と長崎において残酷な結末を迎えた先の世界大戦は、最も豊かで、最も力のある国々の間で戦われました。そうした国々の文明は、世界に偉大な都市や優れた芸術をもたらしていました。そうした国々の思想家らは、正義や調和、真実に関する考えを唱えていました。それにもかかわらず、支配したい、征服したいという衝動と同じ卑しい衝動から生じたのです。数年の間に、およそ600万人の人たちが亡くなりました。男性、女性、子ども、私たちと何ら変わらない人たちが、撃たれ、殴られ、行進させられ、爆撃され、投獄され、飢えさせられ、ガス室に入れられ、死んでいったのです。

■大義の名の下に暴力が正当化されてきた

物質的な進歩や社会革新によって、私たちはいくたびこの事実を見失うのでしょうか。より高邁な大義の名の下に、なんと簡単に暴力を正当化してしまうようになるのでしょうか。

■科学の革命には、倫理的な革命も必要

現代の戦争は、私たちにこの真実を教えています。広島は、この真実を教えています。科学技術の進歩は、人間社会の制度においても同じだけの進歩がなければ、人類を破滅に導きかねません。原子を分裂させるに至った科学革命は、同時に倫理的な革命も必要とするのです。



提供:朝日新聞社

■8月6日の記憶を風化させてはならない



いつか、証言をする被爆者の声をもはや直接聞くことができなくなる日がきます。しかし、1945年8月6日の朝の記憶を決して風化させてはなりません。その記憶があれば、私たちは、現状に甘んじようとする心と戦えるのです。私たちの道義的な想像力がかき立てられ、私たちは変わることができるのです。

そして、あの運命の日以来、私たちは、希望をもたらす選択を行ってきました。アメリカと日本は、同盟関係のみならず友好関係も築きました。その友好関係は、戦争を通じて獲得できるよりもはるかに多くのものを両国民にもたらしてきました。

た。ヨーロッパの国々は連合を結成しました。それにより戦場は、交易および民主主義で結びつく場となりました。抑圧された民族や国々は解放を勝ち取りました。国際社会は機構や条約を成立させました。それらは戦争を回避する機能を持ち、そして存在する核兵器を制限し、徐々に縮小し、最終的には廃絶することを目指すものです。

■「恐怖の論理」から抜け出す勇気を

それでもなお、国家間の武力侵攻が、そしてテロ攻撃や腐敗行為、残虐行為や抑圧行為が世界各地で起きているのを目にしますが、それらはことごとく、私たちの取り組みがいまだ終わっていないことを物語っています。わが国のように備蓄核兵器を保有する国々は、「恐怖の論理」から自由になり、「核なき世界」を追求する勇気を持たなくてはなりません。私の生きているうちに、私たちはこの目標を実現できないかもしれません。ですが、たゆまぬ努力によって、破滅的状况が起きる可能性を減らしていくことができます。私たちは、これら備蓄兵器の廃絶への道筋を示すことができます。ほかの国への拡散を阻止し、死をもたらす原料物質が狂信者たちの手に渡らないようにすることができます。

■過去の間違いを繰り返さないために

私たちは、戦争そのものに対する考え方を変えなければいけません。外交を通じて紛争を防ぎ、すでに起きてしまった紛争を終わらせる努力をするために。相互依存の高まりが暴力的な競争の動機になるのではなく、平和的な協力を生むものだと考えるために。そして、私たちの国々を、破壊する能力によってではなく、何を築き上げるかによって定義づけるために、そうしなければなりません。

■理想の実現が容易だったことはない

原爆を投下した爆撃機のパイロットを許した女性がいます。それは、本当に憎いのは戦争そのものだと彼女にはわかっていたからです。また、ここで亡くなった米国人たちの家族を捜し出した男性がいます。それは、彼らの喪失感とは自らの喪失感と変わらないと、彼には思えたからです。すべての命はかけがえのないものだという強い主張。私たちは人類という一家族の一員なのだという根本的で、なくてはならない考え、これらは、私たち全員が語るべき物語なのです。

■広島と長崎が道義的な目覚めの始まりの地に

世界はここ広島で永遠に変わってしまいました。しかし今日、この街の子どもたちは平和な一日を過ごせるでしょう。なんと尊いことでしょうか。平和な毎日を守る価値のあるもの、そしてさらに、すべての子どもたちに広げていく価値のあるものです。それは、私たちが選び取ることでできる未来です。広島と長崎が核戦争の幕開けとしてではなく、私たち自身の道義的な目覚めの始まりの地として知られる未来なのです。

本文は(株)朝日出版社発行の「オバマ広島演説」から一部を抜粋しました。